

「君の社会的ミッションは、何か!」 中村 哲医師 の遺された言霊

馬渡 徳子

昨年12月4日、アフガニスタンにて凶弾に倒れて永眠された「中村 哲」医師は、金沢大学大学院の私の副指導教官、堤敦朗准教授の元上司でいらした。

私は、堤先生より「国際障害学」を学んでいる。聴講生は、私以外全員様々な国からの留学生で、博士課程後期の方もおられ、毎回の課題に対するディスカッション場面での、真剣な自分の言葉で表出する意見のぶつかり合いが、情熱的であり、心が揺さぶられ、愉ましい。講義後には、率直に自分を顧み、わからないことを認め、それを調べようという動機と行動につながる時間となっている。

そのようなご縁から、キャンパス内と、そして県民公開講座として、観光中心街にある金沢大学サテライト・プラザで、ミニ講演会「中村 哲医師の『直接の言葉』-君の社会的ミッションは何か-」が開催された。添付写真

直前の広報にも関わらず、会場には高校生から後期高齢者まで、あふれんばかりの県民が参集し、質問や意見が

相次いだ。石川県での様々な講演では、主体的にフロアからの質問が相次ぐという現象は、まずもって稀であり、この反応に、とても励まされた。

特に、大規模災害の被災移住体験者の方による「1、支援される側としての現地住民(当事者)の本音。2、自分にも何か出来たらと思い立ちボランティアとして現地入りする様々な善意の人々への、支援される側への倫理的配慮提起」に、「人が人を支援することの倫理・価値」を振り返る機会となり、心が揺さぶられた。

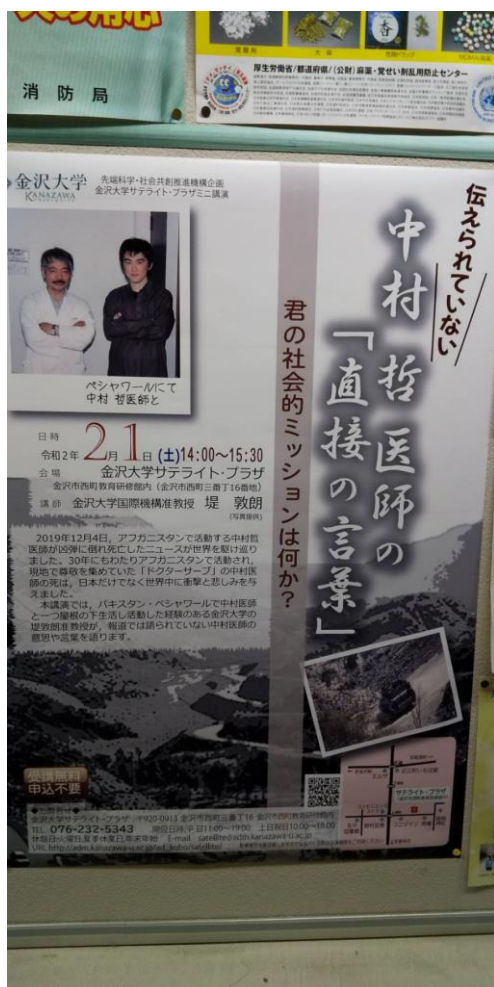
私は、所属機関の特徴として、幅広く、外国人も含めた生きづらい人々を支援する倫理綱領と独自の医療費助成制度を持ち、日々実践している医療ソーシャルワーカーの後輩4名と、いしかわ家族面接を学ぶ会の仲間(このマガジンに連載されておられる水野スウさんも。)3名とともに、中村哲医師の言霊を、今回の講演で拝聴した。

ともに活動された直接の元部下だからこそ堤先生より語られた中村哲医師のご功績と生き様に、心よりの哀悼の意を表するとともに、永年とも

に暮らし、関わりのあった現地の様々な世代の人々が、どんなに理不尽な思いでおられることだろうと、思いを馳せるとき、胸がつまる思いがした。

そして、様々な世代の参集者一人一人に、それぞれのこれからの人生の宿題「課題」を頂くことができた。

以下に、書き留めることができたいくつかの言霊をご紹介したいと思う。



- 1、何かを与えられることを考えるのではなく、何を生み出すが、何を与えるか、何を変えていくかを考える方が、価値があり、嬉しい。
- 2、国際化とは、異質な文化(人と人との関係のあり方)の中に、自分の文化と共通な基盤を発見し、そこか

らお互いの文化の違いが生ずる経過をたどってくる作業である。

- 3、自分の社会的ミッションは何か、そこをとことん考えなさい。
- 4、経験は大事だ。だが、自分の経験だけでは語ってはいけない。
- 5、若いからと言って、責任がないわけではない。
- 6、自分を変えようという意思がないところには、真の国際化は生まれない。
- 7、艶、つけんでんよか。(博多弁で、かっこつけてよ)
- 8、郷愁がないと頑張れないなあ。
- 9、今は、仕事(任務・業務)よりも、街に出て、市場に行き、遺跡を観て、人々と話し、五感で現地を感じなさい。→最短でも三往復の会話をする。
- 10、自己実現の先に何かがあるのか、考えなさい。ちょっと、立ち止まりなさい。
- 11、一緒の方が、嬉しいよ。
- 12、社会的課題に対して、自己実現だけでは人は壊れていく。ミッションを、パッションをもって一生懸命やるだけだ。
- 13、現地の人々の、「尊厳と誇り」を大切にするという価値・人権感覚を率直に自身でふりかえり続ける。

先生の御著書は、沢山あり、是非とも購読して頂きたいと、存じます。

天国の中村 哲医師に合掌。